

絵解きの寺

浄土宗・苅萱山寂照院

かるかや山 西光寺

はるばると尋ねし我が子を前にして
父と名のれぬはかなどよ



善光寺と共に栄えた 「絵解きの寺」

かるかや山西光寺は、善光寺の門

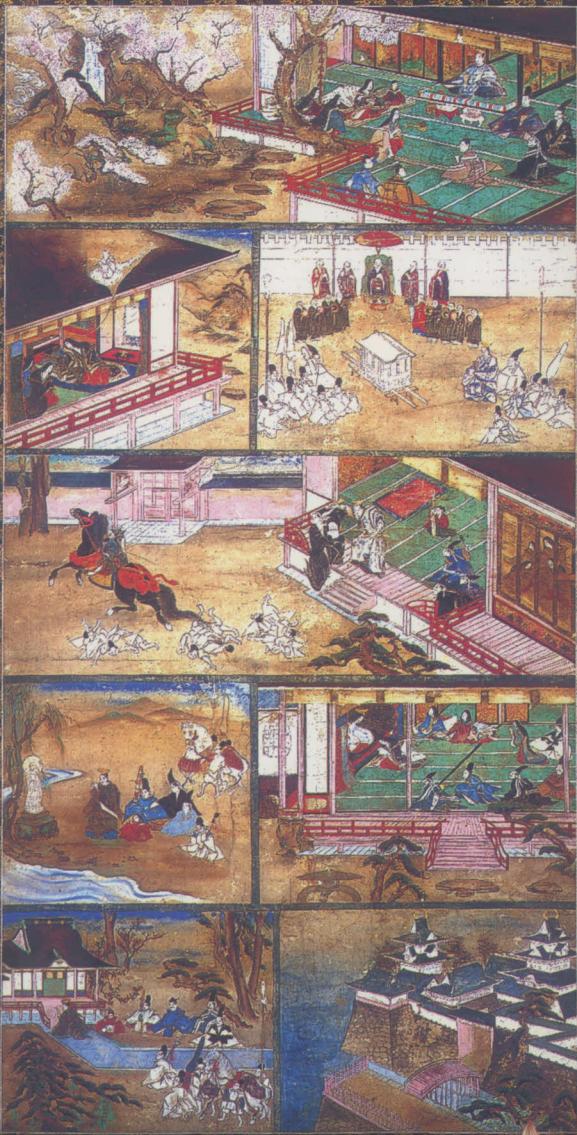
前町・長野市の中心街にあり、開祖
苅萱上人とその御子信照坊道念上人

(幼名石童丸)のお二人が刻んだ二
体の「苅萱親子地蔵尊」(苅萱上人作
は市指定重要文化財)を一本尊として

安置しております。

また、絵解きを現在に蘇らせた「絵
解きの寺」としても知られ、江戸時
代の「苅萱道心石童丸御親子御絵伝」
二幅が寺宝として伝わでています。

苅萱道心とは、筑前の国守で苅
萱の荘に暮らしていた加藤左衛門重
氏が出家して名乗つた法師名です。



苅萱道心石童丸御親子御絵伝 《江戸中期》



かるかや山西光寺

慈光靈苑

長野市安茂里大平



宗派にかかるわらず
ご相談ください。

北村西望作
「慈光觀音」

観音さまの
大きな慈愛に
包まれて。

市街地から車で 10 分。善光寺平一望の小高い場所に開かれた荘厳静寂な靈苑です。観音さまの大きな慈愛の光と充実した設備の墓所で、故人と静かに語り合う時間を。ご希望の方は隨時見学も出来ます。

院 照 寂 山 荏 萱 西 光 寺

〒 380-0826 長野市北石堂町 1398
電話 026 (226) 8436 FAX 026 (224) 9180



長野駅から徒歩 7 分

苅萱道心石童丸御親子御絵伝《江戸前期》



高野山で修行し、後に善光寺如来に導かれ、この地に下り、草庵を開き、日々善光寺へ参詣しながら地蔵尊を刻み、念仏を広められたのでした。
善光寺との深い縁で結ばれた当山は、その昔、善光寺南大門とも称せられ、善光寺参詣の人々が必ず立ち寄ついく寺として榮えてきました。
また界隈は、石童丸にちなんで石堂町と呼ばれ、当山が広く庶民に親しまれ慕われてきたことがしのばれます。
境内には、苅萱上人・石童丸御親子の銅像や苅萱塚、信濃新四国靈場石碑、大師堂（園通殿）、長野県最古の芭蕉塚、一茶句碑などがあり、八百年の歴史と伝統に支えられた慈愛の灯が、今なお消えることなく受け継がれております。

かるかや山西光寺 絵解きの世界

「十王めぐり」

絵解きは、説教・唱導を目的とする、絵画を用いた文芸・芸能です。そのルーツは、インドにあります。中央アジア・中国・朝鮮半島から日本に伝わりました。口演者の当意即妙な語りが聴衆を引きつける絵解きの多くは、現在、寺社を中心伝えられ、ここ山西光寺では、物語性豊かな「苅萱道心石童丸御親子御絵伝」の絵解きを行っています。他に「冥途への旅立ち（十王めぐり）」の説明も行います。

西光寺本堂での「苅萱道心石童丸」の絵解き風景



時を超えて語り紡ぐ
親子の絆と御仏の導き

絵解き・宝物拝観 30分500円

「苅萱道心と石童丸」(約20分)

紙芝居
「石童丸の
おはなし」

「十王めぐり」(約10分)

(約10分)



苅萱道心・石童丸
親子の銅像

苅萱道心と石童丸

苅萱道心石童丸御親子御絵伝

今からおよそ八百年前、九州六カ国の国守加藤左衛門重氏は、世の無常を悟り、京の黒谷に登り法然上人の弟子になります。ある夜、延命地蔵尊のお告げを受け、高野山に入ります。國に残された千里御前は、男児を出産し「石童丸」と命名。

善光寺との深い縁で建てられた
回向柱に触れて御仏と結縁

高野山は女人禁制、石童丸は母を麓の宿に残し、
黒谷へ、さらに高野山へと長い旅に出ます。當時、

かるかや山西光寺は「善光寺現本堂」建立の普請惣奉行小山田平太夫ゆかりの地。善光寺御開帳大回向柱と同じ木から作られた回向柱が本堂前に建立され、尊い仏さまとの縁を結びます。



苅萱道心・石童丸

父を尋ねて山内に入り、奥の院は無明の橋で、花桶をさげた僧に
出逢います。この僧こそ父・茹萱道心。道心は、石童丸がわが子であ
ると知りますが、仏に捧げた身ゆゑ名乗る事が出来ず、「尋ねし父は、す
にこの世にな」と告げ、山を下りるよう諭します。山を下りてみると、
母は長旅の疲れから帰らぬ人。泣く泣く国に帰れば、姉も亡く、石童丸は

再び高野山に登り、茹萱道心を師僧と仰ぎ、信照坊道念と名乗り、三十四
年間修行。その後、道心は、善光寺如来に導かれて信濃の地に下り、一寺
(今日の茹萱山西光寺)を建立。一刀三礼の地蔵尊を刻み、十四年間常行
念佛に励み大往生を遂げられました。父茹萱の往生を知り、道念も当山へ
移り住み、父の菩提安かれと茹萱塚を建立。ご自身も一刀三礼の
地蔵尊を刻み、親子地蔵尊として本堂に安置されたのです。



茹萱塚 (鎌倉時代)

左は石童丸の母君・千里御
前の御墓 中央は茹萱上人の
御墓 (信濃七塚の一つ)。右は
石童丸の御墓です。



子授け・安産・子育ての靈石

茹萱道心は、父重昌が香椎宮に
詣でて授かった靈石の靈験によって
生まれました。茹萱道心誕生譚
にちなみ、当山本堂に祀られた
漆黒の石は、子授け・安産・子
育ての靈験もあらたかな靈石とし
て信仰されています。

信濃最古の芭蕉塚

寛保三年(一七四三)芭
穂屋のすすきの
刈残し



百萬塔

ひゃくまんとう
長野市重要文化財。奈良
時代の作で中の陀羅尼經は
世界最古と言われる印刷。



雪ちらるや 穂屋のすすきの 芭

寛保三年(一七四三)芭
穂屋のすすきの
芭翁五十九回忌法要で建立。

花乃世八
仏の身へおや子かナ
一茶自筆の文字が刻まれた、
茹萱道心・石童丸・親子を
詠まれた句碑。

快走祈願

伝小野笠作韋馳天さま



善光寺七福神巡り

第一番 寿老人像



「家運興隆・無病息災・
金運招福」に靈験あらた
かな塚として広く信仰さ
れています。

朝日山大蛇の塚

「家運興隆・無病息災・
金運招福」に靈験あらた
かな塚として広く信仰さ
れています。



ご本尊 茹萱親子地蔵尊

(木像・来迎地蔵尊像) ◆

茹萱上人作
長野市重要文化財

茹萱上人・石童丸親子が、子授け・子育ての願いを込
めて彫られた地蔵尊で、右手に杖、左手に宝珠を持ち、
両袖を風になびかせた、珍しい貴重な来迎地蔵尊です。

日本五大説経として古くから知られ
広く語られてきた「かるかや」の物語。



山門石標

西光寺の絵解き、パリへ

西光寺 寺庭 竹沢環江

かるかや山西光寺は昔から「絵解きの寺」と言

れたのです。

われてきました。その絵解きは一時途絶えていましたが、四十年前に第五九世徳譽俊雄住職夫人繁子が復活し、第六〇世淨譽信宏住職夫人環江が引き継ぎ、現在当山の絵解きはこのふたりによつて行われ、日々訪れる参拝者に供されています。

その西光寺の絵解きが、二〇一五年秋（十月四日～十二日）、次いで二〇一八年秋（九月二十六日～十月五日）にフランス・パリで行われました。名古屋大学阿部泰郎教授と樋山女学園大学伊藤信博教授とのご縁により、「刈萱道心石童丸御親子」と「六道地獄絵」の絵解き口演の機縁に恵ま

「六道地獄絵」の絵解き口演は、パリ八区モンソーロ公園内にあるエルヌスキ美術館で開催、聴衆は事前に募った美術愛好家、研究者など五十名限定でした。口演用の掛け軸は、伊藤信博教授が今回のために当山の地獄絵をナイロン生地に複製したもの六幅を作つてくださいました。口演はお羽根指しで絵を指し示しながら地獄の様子を語り、パレ教授がこれをフランス語に翻訳、聴衆に伝えるというスタイルで進められました。今回は時間の都合もあり短かめのパリ用台本を作り行いましたが、皆さまスマホ片手に記録をとりながら

興味と関心を持つてお聞きくださいました。

滞在中、別の日にはパリから東に移動、ドイツ国境近くの町ストラスブールのストラスブル

ル大学で「刈萱道心石童丸御親子」の口演をさせていただきました。会場となつた大学の講堂は、歴史的かつ重厚な建物で、100名もの学生と「日本の絵解き口演」という情報を得て集まつた近隣の住民の方々100人の前で口演をさせていただきました。

これらすべてが、仏様のご加護のおかげと感謝せざるにはいられません。これからもこうした貴重な経験と多くの出会いをいただきながら、絵解きを続けさせていただければと思つております。どうぞよろしくお願ひいたします。

追記・一〇一九年秋にはアルザス・

同講堂では、当山の絵解きの他に、千葉県市川

市の徳蔵寺（真言宗）の声明と名古屋大学大学院の方の「聖徳太子絵伝」の絵解き口演も行われました。

日本文化としての絵解きを、二度にわたつて海外で紹介、口演させていただいたことは、「絵解きの寺西光寺」にとりまして一つのエポックとなる出来事であり、思い出深い歴史の一ページを重ねることとなりました。

合掌

国語逍遙

⑧

清湖口敏

恋しさに母とともに旅立ち、父を尋ね歩く。やがて高野山の麓まで来たもの、高野山は女人禁制。石童丸は母を麓の宿に残し、ひとり山に入つていく。

奥の院の無明の橋で一人の僧と出会う。この僧こそ父道心なのだが、石童丸は父の顔を知らない。一方、目の前の石童丸をわが子と知った道心は涙で頬をぬらす。「お目に涙が…」もしや私の父上きまでは…」。

修行の身のゆえ父とは名乗れず、そなたの父は去年亡くなつたと教える。涙ながらに山を下りた石童丸を待つていたのは、息を引き取つたばかりの母だった。

悲しみに暮れて帰郷する」と、姉もまた、この世の人ではなくなっていた。天涯孤獨となつた石童丸は再び高野山へ。道心を師に修行すること34年。しかし父子

登る場面だ。父子の別れでは「親は子を知り、子は親を知らず。愛し吾子を前にして、名乗れぬ父の悲しみは、泣いて血を吐くほどゝぎす」。台本を声に出して読んでみると、詞章の洗練された修辞、巧みなリズムが魂にまで響くようだ。決して難解ではなく、かといつて俗に流れてもいいない。

それを抑揚豊かに朗誦する絵解きは明らかに、説経節や義太夫節、謡曲、講談、浪曲といった語り芸と同じ系譜にあることが分かる。

竹澤さんは「効薈」のほか「十王巡り」「六道地獄絵」の絵解きも演じた。こちらは「効薈」と連つて軽妙かつ当意即妙の趣があり、面白く聴ける。三途の川を渡つた亡者が裁判で生前の悪行を言い立てられると、「記憶にございません」…。どこかで聞いたふうな弁解が会場の笑いを誘う。世相を斬る饑舌も「効薈」にはなかつたもので、それぞれの絵解きの味

その林間学舎から半世紀余を経たこの夏、同じ物語を再び聴く機会があった。信濃(長野県)の善光寺にほど近い西光寺の副住職夫人、竹澤環江さんによる「絵解き」の「出張」公演が、東京都内の大学ホールで催されたのである。

絵解きとは、高僧の絵伝や寺社縁起、地獄絵など

の掛幅絵を聴衆に示し、絵

の内容や意味を解説するも

のである。物語と絵、語り

の3つが一体となつた、さ

しすめ視聽覚説教といった

ところだつつか。もともと

は仏教教化が目的だった

が、鎌倉時代あたりから芸

能化していき、江戸の頃に

は庶民の娯楽の一つでもあ

つたという。

この日、竹澤さんは2幅

大阪市内の小学校に通つた私は6年の夏、林間学舎で初めて高野山(和歌山県)に登つた。そこでお坊さんから聴いた「効薈道心と石童丸」の物語は、あまりにも悲しくて、目にたまたま涙を友達に気取られまいと慌てたことを、今でもはっきりと覚えている。

その林間学舎から半世紀

余を経たこの夏、同じ物語

を再び聴く機会があつた。

信濃(長野県)の善光寺に

ほど近い西光寺の副住職夫

人、竹澤環江さんによる

「絵解き」の「出張」公演

が、東京都内の大学ホール

で催されたのである。

絵解きとは、高僧の絵伝

や寺社縁起、地獄絵など

の掛幅絵を聴衆に示し、絵

の内容や意味を解説するも

のである。物語と絵、語り

の3つが一体となつた、さ

しすめ視聽覚説教といった

ところだつつか。もともと

は仏教教化が目的だった

が、鎌倉時代あたりから芸

能化していき、江戸の頃に

は庶民の娯楽の一つでもあ

つたという。

この日、竹澤さんは2幅

は庶民の娛樂の一つでもあつたといふ。

この日、竹澤さんは2幅

の「茹草道心石童丸御親子

御絵伝」に描かれた計27の

場面を、お羽根指し（先端

に羽根のついた棒）で次々

と指示しながら、折り自

正しく、熱のこもった絵解

きを開いていった。よく

知られた話ながら、念のた

め、西光寺が発行する『絵

解き 茹草道心と石童丸』

の「台本」を基に筋道を紹

介しておきたい。

世の無常を観じて筑前国

（福岡県）の所領も、身重

の妻、子も捨てて出家した

父（茹草道心）。後に生ま

れた石童丸は13歳の春、父

も亡くなる…。

「高野山が女人禁制でな

かつたら、石童丸も母も父

に会えた」である。子

供心に突き刺さった悲しみ

が、竹澤さんの絵解きを聴

くうちに蘇つてくる。やがて

気がした。ただ、今の私は

むろん子供ではなく、同時

に、絵解きというすばらじ

い「語り」に胸然と酔つこ

ともであったのである。



長野市の西光寺本堂で「絵解き」を口演する竹澤環江さん
(西光寺提供)

私は今、遠いあの日の林間学舎を思い出しながら、うな醍醐味に、日本人自身がもっと注目してもよいのではなかろうか。
あすは「8月24日」、茹草道心・石童丸父子の『絵解き』である。

平成29年(2017)日刊26814号

8|23[水]



処暑

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN

発行所 ⑥産業経済新聞東京本社2017

〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2

☎東京(03)3231-7111(大代表)

た石童丸は、早速信濃に赴き念仏に励む。そして道心の死から2年後の同じ8月24日、とうとう親子の名乗りを交わさぬままに石童丸も亡くなる…。

善光寺に旅立ち、当地で往生する。道心の往生を悟った竹澤環江さんは、お羽根指し（先端に羽根のついた棒）で次々と指し示しながら、折り自正しく、熱のこもった絵解きを開いていった。よく知られた話ながら、念のため、西光寺が発行する『絵解き 茹草道心と石童丸』の「台本」を基に筋道を紹介しておきたい。

世の無常を観じて筑前国（福岡県）の所領も、身重の妻、子も捨てて出家した父（茹草道心）。後に生まれた石童丸は13歳の春、父

19年から竹澤環江さんが絵解きの大師だ。竹澤環江さんは、竹澤繁子さんで、昭和40年代末の頃だったとか。平成19年からは竹澤環江さんの指導のもと、環江さんが絵解きを継承し、「昨年にはパリの大学でも口演した」というから、頼もしい。

絵解きと同じく物語、絵、語りの3つで構成される紙芝居も、今では日本独自の文化として海外にも普及し始め、作品は多くの言語に翻訳されている。演者の声や演出が臨場感をいやが上にも高め、物語への共感が聴衆の間に広がっていく。

絵解きや紙芝居のこのようないい處に、日本人自身がもっと注目してもよいのではなかろうか。

私は今、遠いあの日の林間学舎を思い出しながら、ふと、茹草の話を聽かせてくれたお坊さんは、もしや、道心その人ではなかつたかと、幻始めたことを考えてみた。

は庶民の娯楽の一つでもあつたという。

この日、竹澤さんは2幅

の「茹草道心石童丸御親子

御絵伝」に描かれた計27の

場面を、お羽根指し（先端

に羽根のついた棒）で次々

と指示しながら、折り目

正しく、熱のこもった絵解

きを開いていった。よく

知られた話ながら、念のため、西光寺が発行する「絵解き 茹草道心と石童丸」

の「台本」を基に筋道を紹介しておきたい。

世の無常を観じて筑前国（福岡県）の所領も、身重の妻、子も捨てて出家した父（茹草道心）。後に生まれた石童丸は13歳の春、父

善光寺に旅立ち、当地で往生する。道心の往生を悟つた石童丸は、早速信濃に赴き念仏に励む。そして道心の死から2年後の同じ8月24日、とうとう親子の名乗

りを交わさぬままに石童丸も亡くなる…。

「高野山が女人禁制でな

かつたら、石童丸も母も父

に会えたであろうに」。子

供心に突き刺さった悲しみ

が、竹澤さんの絵解きを聴くうちに蘇つてくるような

気がした。ただ、今の私は

むろん子供ではなく、同時

に、絵解きというすばらじ

い「語り」に陶然と酔つこ

ともできたのである。

絵解き

伝



長野市の西光寺本堂で「絵解き」を口演する竹澤環江さん
(西光寺提供)

私は今、遠いあの日の林間学舎を思い出しながら、ふと、茹草の話を聴かせてくれたお坊さんは、もしや、道心その人ではなかつたかと、幻想めいたことを考えてみた。
あすは「8月24日」、茹草道心・石童丸父子の「祥命日」である。

絵解きや紙芝居のこのよくな醍醐味に、日本人自身がもっと注目してもよいのではなかろうか。

絵解きと同様く物語、語りの3つで構成される紙芝居も、今では日本独自の文化として海外にも普及し始め、作品は多くの言語に翻訳されている。演者の声や演出が臨場感をいやが上にも高め、物語への共感が聴衆の間に広がっていく。

明治の中頃までは盛んだった西光寺の絵解きは、一時期途絶えたとい。復活させたのが竹澤さんの義母にあたる西光寺住職夫人、竹澤繁子さんで、昭和40年代末の頃だったとか。平成19年からは繁子さんの指導のもと、環江さんが絵解きを継承し、「昨年にはパリの大学でも口演した」というから、頼らしい。

で、それぞれの絵解きの味比べもまた一興か。